

平成30年度 食品検査状況

1 残留農薬



平成30年度は、野菜や果実等の農産物100検体（国産品80、輸入品20）について延べ9,660項目の残留農薬検査を行いました。検査の結果、100検体中43検体（検出率43.0%）から延べ96農薬が検出されましたが、食品衛生法に定められている残留基準を超えたものはありませんでした。検出した農薬のほとんどは基準値の1/10から1/100の低い値でした。

残留農薬の検査結果

	国内産		輸入品		全体	
	検体数	検査項目数	検体数	検査項目数	検体数	検査項目数
野菜	30	3,600	10	1,200	40	4,800
果実	20	2,400	10	1,200	30	3,600
玄米	10	1,200	0	0	10	1,200
畜肉	20	60	0	0	20	60
合計	80	7,260	20	2,400	100	9,660
農薬検出数	31	73	12	23	43	96
検出率	39%	1%	60%	2%	43%	1%
残留基準超過数	0	0	0	0	0	0

2 放射性物質



平成30年度は、流通品の一般食品、牛乳及び乳児用食品、飲用水の200検体、および野生の山菜ときのこの73検体について放射性物質（放射性セシウム）の検査を行いました。その結果、流通品については200検体中3検体から放射性セシウムが検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。また、野生山菜（4～5月実施）については58検体中6検体から、野生きのこ（8～10月実施）については15検体中6検体から放射性セシウムが検出されましたが、基準値を超えたものはありませんでした。

流通品の検査結果

	検体数	検出数	検出率	基準超過検体数	基準値 (Bq/kg)
一般食品	182	2	1.1%	0	100
牛乳及び乳児用食品	10	1	10%	0	50
飲用水	8	0	0%	0	10
計	200	3	1.5%	0	

野生山菜・きのこの検査結果

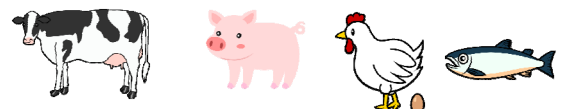
	検体数	検出数	検出率	基準超過検体数	基準値 (Bq/kg)
山菜	58	6	10%	0	100
きのこ	15	6	40%	0	
計	73	12	16%	0	

3 動物用医薬品

平成30年度は、県内・国内産魚介類(3検体)、県内産鶏卵（9検体）、輸入魚介類（4検体）、輸入肉類（牛肉3検体、豚肉3検体）について延べ969項目の動物用医薬品の検査を実施しましたが、食品衛生法に定められた基準値を超えたものはありませんでした。

動物用医薬品の検査結果

品名		検体数	検査項目数	検査結果
県内産	魚介類	2	90	基準超過なし
	鶏卵	9	396	
国内産	魚介類	1	45	
	魚介類	4	180	
輸入	牛肉	3	129	
	豚肉	3	129	
	鶏肉	0	0	
合計		22	969	



4 食品添加物

平成 30 年度は、保存料 15 検体、酸化防止剤 7 検体、着色料 8 検体、甘味料 10 検体について、検査を行いました。その結果、使用基準に違反した食品はありませんでした。

食品添加物の検査結果

種類	検体数	検査項目	検査結果
保存料	15	安息香酸、ソルビン酸、 パラオキシ安息香酸エステル類	使用基準違反なし
酸化防止剤	7	tert-ブチルヒドロキノン	
着色料	8	食用赤色2,3,40,102,104,105,106号 黄色4,5号、緑色3号、青色1,2号	
甘味料	10	サイクラミン酸	
合計	40		



5 遺伝子組換え食品

平成 30 年度は、とうもろこし加工食品（4 検体）を対象に検査を行いました。その結果、未審査組換え体 Bt10 が検出された食品はなく、表示が適正に行われていることが確認されました。

遺伝子組換え食品（とうもろこし加工品）の検査結果

品名	検体数	検査項目	結果
コーン缶詰	4	未審査組換え体Bt10定性検査	不検出



6 アレルギー物質

平成 30 年度は、「そば」混入のおそれのある小麦粉食品 6 検体及び「小麦」混入のおそれのある米粉食品 4 検体（いずれも県内製造）の計 10 検体について、抗原抗体のキットによる定性試験を実施しました。その結果、そば、小麦とも陽性反応を示すものはなく、表示違反の食品はありませんでした。

アレルギー物質の検査結果（そば）

品名	検体数	そば陽性
中華めん	3	0
ゆでうどん	1	0
乾麺	2	0
計	6	0



アレルギー物質の検査結果（小麦）

品名	検体数	小麦陽性
もち粉	1	0
米粉	1	0
菓子	2	0
計	4	0

